

人間行動学専攻・教育学専修

支援の場面における〈人格的関係性〉の成立の可能性
——ある知的障がい者施設における支援者の認識変容に着目して——

研究科	文学研究科
修了年度	平成 30 年度
学籍番号	M17LB001

かわさき まな
川崎 真奈

目次

序章 問題意識・研究方法・論文構成について.....	1
第1節 問題意識.....	1
1. 研究目的・背景.....	1
2. 先行研究のレビュー.....	3
第2節 研究方法.....	7
第3節 本論文の構成.....	8
第1章 支援の場面における支援者と被支援者の 関係性.....	9
第1節 支援の場面における2つの関係性.....	9
1. 対人援助職における支援の関係性の概観.....	10
2. 本研究における関係性のとらえ方 (1) 〈役割的・職業的関係性〉について (2) 〈人格 的關係性〉について (3) 〈役割的・職業的関係性〉と 〈人格的關係性〉の比較.....	12
第2節 〈人格的關係性〉の重要性.....	14
1. 被支援者にとっての重要性.....	15
2. 支援者にとっての重要性.....	16
3. 支援者と被支援者双方にとっての重要性.....	19
第3節 〈人格的關係性〉の成立をめぐる可能性と困難.....	21
1. 〈人格的關係性〉の成立可能性 —ロジャーズとブーバーの対話より— (1) 議論の背景 (2) ロジャーズとブーバーの主張の 内容 (3) 二人の議論から見出せる〈人格的關係性〉 の可能性.....	21

2.	〈人格的關係性〉の成立をめぐる困難と課題	
	(1) 〈人格的關係性〉の成立の難しさ (2) 〈人格的 關係性〉の課題	26
第4節	〈人格的關係性〉の成立条件——コミュニティの視点——	28
1.	ケアとコミュニティの關係	29
2.	〈人格的關係性〉の成立に必要なコミュニティの要素	30
第2章	研究対象と研究方法について	35
第1節	研究対象	35
1.	研究対象の概要	35
2.	対象の特徴	36
3.	理念と実践	38
第2節	研究方法	39
1.	研究の手続き	39
2.	対象者について	40
3.	インタビューデータの収集	41
4.	分析の手順	42
第3章	インタビュー結果 (I)	
	——Xの家のアシスタント (支援者) に おけるなかま (被支援者) との關係性の 認識変容——	44
第1節	Aさんの場合	44
1.	当初の認識	44
2.	認識変容のきっかけとなった出来事	
	(1) なかまとのけんか (2) なかまから助けられた体 験 (3) なかまの成功体験 (4) 外部の人からの支え	46
3.	現在の認識に至る変容プロセス	50

第2節	Bさんの場合	53
	1. 当初の認識	53
	2. 認識変容のきっかけとなった出来事	
	(1) あるNPOでの障がいのある人たちとの出会い	
	(2) 分かち合い(Xの家)	54
	3. 現在の認識に至る変容プロセス	57
第3節	Cさんの場合	60
	1. 当初の認識	60
	2. 認識変容のきっかけとなった出来事——ラテンアメリカの世界との出会い——	61
	3. 現在の認識に至る変容プロセス	62
第4節	Dさんの場合	64
	1. 当初の認識	64
	2. 認識変容のきっかけとなった出来事	
	(1) 運営/経営に関わること	
	(2) 仕事としての意識	
	(3) ノンバーバルなコミュニケーション	
	(4) 食事・Y共同体の理念にもとづいた行事	65
	3. 現在の認識に至る変容プロセス	70
第4章	インタビュー結果(Ⅱ)	
	——〈人格的關係性〉をめぐる認識——	73
第1節	〈人格的關係性〉の共通認識	73
	1. 支援の相互性	74
	2. なかまから支援されること	78
第2節	〈役割的・職業的關係性〉の位置づけ	80
	1. 〈役割的・職業的關係性〉としての役割の必要性	80
	2. 〈役割的・職業的關係性〉と〈人格的關係性〉の二重性から生じる矛盾の認識	87
第3節	〈人格的關係性〉の構築の基盤とは	93

1. 「コミュニティ」という共通認識	93
2. それぞれのコミュニティ観にみる「共に生きる」意識	100
第5章 総合考察	107
第1節 支援者の認識変容プロセスの多様性と〈人格的關係性〉 の認識の一致	107
第2節 〈人格的關係性〉の内実と〈役割的・職業的關係性〉の 調整	108
第3節 コミュニティ観から生じる〈人格的關係性〉の成立の 認識	109
第4節 「共に生きる」意識の本質 ——beingの視点からみた人間観——	110
終章 結論と今後の課題	113
第1節 結論	113
第2節 今後の課題	115
参考文献	118
謝辞	123